

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立葛西南高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
 (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員3名 計4名
 (3) 内部委員の構成
 校長、副校長、経営企画課（室）長、教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、進路指導主任、保健主任 計7名
 (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
 近隣中学校長、元子ども家庭支援センター相談員、警察関係者 計3名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～4回）の開催日時、出席者、内容、その他
 第1回 令和4年6月27日（月）内部委員6名、協議委員3名
 協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
 学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
 本校の現状と課題等説明、意見交換
 第2回 令和4年10月17日（月）内部委員7名、協議委員2名
 教務部、生活指導部、進路指導部、保健部からの報告
 第3回 令和5年2月17日（金）内部委員7名、協議委員2名
 授業公開、これまでの教育活動に関する報告
 教育活動に関する競技委員からの意見等
 (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 第1回 令和4年6月27日（月）内部委員6名、協議委員3名
 学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
 今年度の学校評価の実施に向けた検討
 第2回 令和4年10月17日（月）内部委員7名、協議委員2名
 今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 第3回 令和5年2月17日（金）内部委員7名、協議委員2名
 アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
 「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
 (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 ・1月 全校生徒 対象： 64人 回収： 35人 回収率： 55%
 ・1月 保護者全員 対象： 64人 回収： 15人 回収率： 23%
 ・1月 学運協 対象： 3人 回収： 3人 回収率： 100%
 ・1月 教職員 対象： 9人 回収： 8人 回収率： 89%

(3) 主な評価項目

	項目	生徒	保護者	教員	学運協
1	生徒は、積極的に授業に参加している	○	○	○	
2	学校が読書活動を行なっている（ことを知っている）	○	○	○	
3	教員は、教材や教え方に様々な工夫をし、わかりやすい授業をしている	○	○	○	
4	教員は、親身になって指導を行っている	○	○	○	
5	生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている	○	○	○	○
6	生徒は、きちんとあいさつができる	○			
7	生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている	○	○	○	
8	教員は、落ち着いた授業環境をつくっている	○	○	○	
9	教員は、生徒の心身の悩みをよく聞いてくれる	○	○	○	

10	教員は、いじめ・暴力行為を見逃さずに対応している	○	○	○	
11	学校は、遅刻指導やチャイム着席など、基本的な生活習慣を身につけるための指導に努めている	○	○	○	
12	学校は、体罰や暴言がない環境づくりに積極的に取り組んでいる	○	○	○	○
13	生徒は、自分の進路について真剣に考えている	○	○	○	
14	教員は、生徒の適性や希望などを生かした進路指導に努めている	○	○	○	
15	学校は、進路に関する情報を適切に提供している	○	○	○	
16	生徒は、部活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる	○	○	○	
17	生徒は、体育祭・文化祭などの行事に満足して取り組んでいる	○	○	○	
18	教員は、生徒の自主性を尊重した行事運営の機会を与えている	○	○	○	
19	学校は、家庭との連絡をよくとっている		○	○	
20	計画的な仕事の進め方により、業務の効率化を徹底し、ライフワークバランスの実現を図っている			○	
21	国や都が働き方改革に取り組んでいることを知っている		○	○	○
22	教育活動に学校運営連絡協議会の意見や要望を取り入れている				○
23	授業公開や学校説明会を積極的に行っている				○
24	地域社会の活動に協力的か				○
25	社会のルールを守る教育が行われている				○
26	電話や窓口などの対応は良い				○
27	読書活動は、生徒に有意義か				○

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・全体的に、肯定的な評価 (A当てはまる Bだいたい当てはまる) が否定的な評価 (Cあまり当てはまらない D当てはまらない) を上回っている。
特に読書活動については、校長および協議委員からも充実してほしい意見があった。
- ・多くの項目で、教員と生徒・保護者の差異が見られるが、これは指導を受ける側と受ける側の意識の違いだと考えられる。
- ・肯定的な評価の割合が50パーセントを超えなかった項目が、昨年度は生徒について0項目、保護者について1項目、教職員について1項目であった。本年度は、生徒について1項目、保護者について0項目、教職員について1項目であった。
- ・肯定的な評価の割合が80パーセントを超えた項目は、全65回答中45回答であった。これは、全体の69%であり、昨年度の69%と同等であり、今年度の状況の中では高い満足度を示している。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

【学習指導】

学習指導に関しては、概ね肯定的であるが生徒、保護者の評価と教員の評価に若干の差が見られる。生徒、保護者の評価が高くなっている。

【生活指導】

生活指導については、基本的な生活態度などの指導については、生徒、保護者、教員ともに満足度の高いものであったが、落ち着いた環境設定については、教員の評価に対して、生徒、保護者の評価が厳しいものであった。これは、安全・安心な環境をつくることのむずかしさを物語っている。学校と家庭の連携等、体制の構築が必要である。

【進路指導】

進路に関する意識や評価は、学年によって大きく異なるが、概ね肯定的な意見であった。個別の進路指導や自立支援チーム等を有効活用し、全学年に進路意識の植え付けを充実させたい。

【特別活動】

特別活動は、参加者と不参加者（欠席者）で回答が異なる項目である。行事等の参加割合を考えた場合、おおむね満足度の高い評価が考えられる。今年度は学校行事等の特別活動が制限を受けほとんど行えなかったが、生徒・保護者の評価はそれほど下がっていない。

【学校運営】

概ね肯定的な意見が多かった。また、働き方改革についても取り組んでいるという結果であった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
- ・読書については重要視してほしいという意見があり、継続して充実した読書活動が続けることが必要であると認識できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域の中学校との連携を一層拡大・充実することが必要である。
- ・より適正な評価を行うためには、質問項目等の精選が必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
- ・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。
- ・学期ごとに校内研修会を実施する。

(2) 学習指導

- ・読書活動の充実。

(3) 特別活動

- ・ボランティア活動や学校行事の充実。

(4) 生活指導

- ・基本的な生活習慣についての指導と個に応じた支援の実施。

(5) 進路指導

- ・個に応じたキャリア計画の実施および外国につながる生徒への進路指導。

(6) 健康・安全

- ・基本的な生活習慣の指導と学校設備の修繕や学校生活における安全指導。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
	3					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延 0人 企画調整会議 0回 延 0人

【成果】

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、オンラインでの実施をしたが、逆に回収率が下がったため来年度は実施方法を検討する。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やす。オンラインでの公開も検討する。